

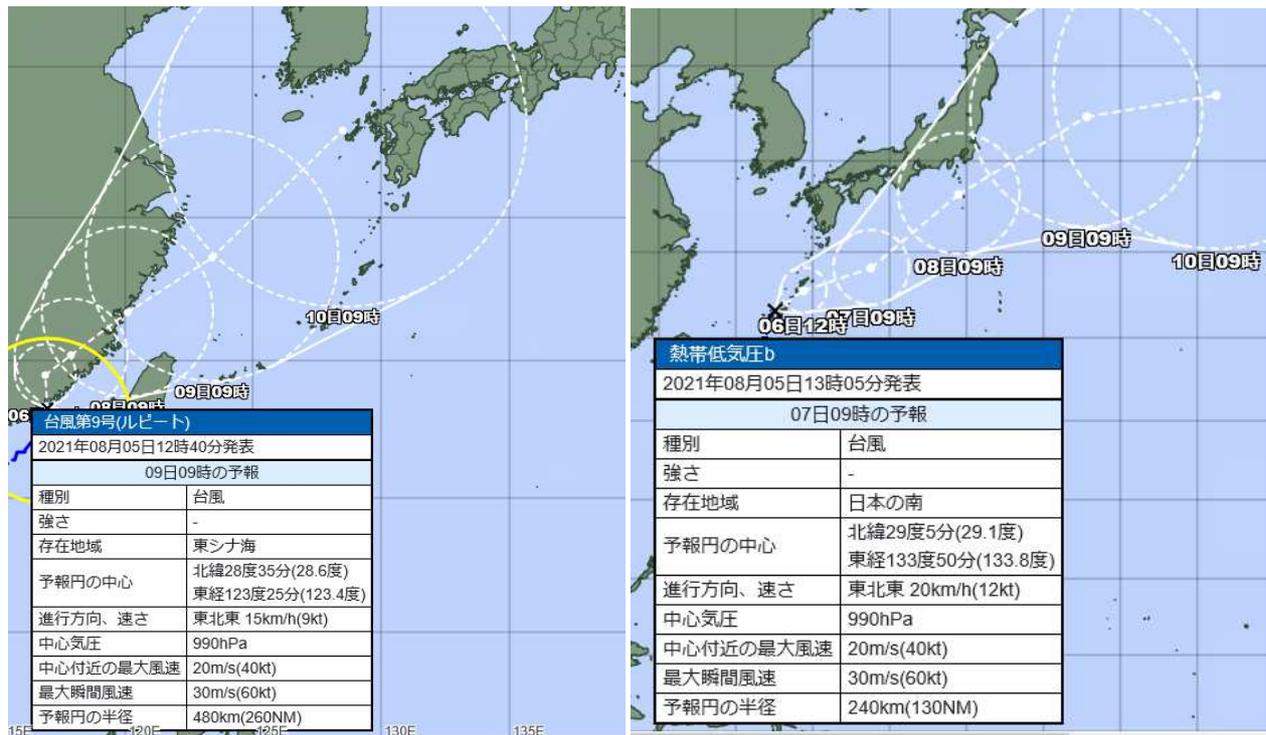
台風第9号等に対する農作物の事前・事後対策

令和3年8月5日
農業技術課

台風第9号は、5日正午現在、南シナ海にあって、北に15km/hで進んでいます。中心気圧は990ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は20メートル、最大瞬間風速は30メートルの強い風が吹いています。今後は華南を通り、10日（火）には九州に近づく見込みです。

また、那覇市の北北西約50kmには熱帯低気圧があり、今後台風に発達したあと北西に進み、7日（土）以降、西日本から東日本に接近する恐れがあります。

今後の台風情報に注意し、被害防止のための事前・事後対策の徹底をお願いします。



○共通事項

- ① 気象情報に注意し、事前対策を早めに行う。台風が接近した場合には、強風等による人的被害の危険性が高まるので、大雨や強風が治まるまでは、見回り等は行わない。また、大雨が治まった後でも増水した水路その他、危険な場所には近づかないなど安全には十分注意し、転落、滑落事故に遭わないように慎重を期す。
- ② ハウス等については、強風に備え、金具等の緩みなどを点検、補修するとともに、マイカ線などによる被覆資材の固定、妻面の補強など、暴風対策を実施するとともに、飛来物による損傷を防止するため、周辺で強風によって飛ばされる恐れのあるものは、あらかじめ片付けておく。また、農機具庫や作業小屋等についても必要な補修や強風対策を行う。
- ③ 収穫期を迎えた農作物については、集出荷施設等の指示に従って収穫を行うが、未熟なものは収穫しない。

○果 樹

〔事前対策〕

- ①冠水、滞水の恐れのあるほ場では、排水路を点検、補修、整備する。
- ②傾斜地等では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。
- ③シルバーマルチ等を敷いてあるほ場では、強風によりマルチが飛ばされたり、捲かれないようにマルチ押さえを補強しておく。

<立木果樹>

- ①倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱などで固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では針金を点検し補修する。
- ②収穫前の園では、枝のゆれによる傷や落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱などにより固定する。

<棚栽培果樹>

- ①強風による棚のゆれや倒壊を防ぐため、つか杭を追加設置する。
- ②ブドウでは、新梢が強風により棚から外れるのを防ぐため再誘引を行う。
- ③ブドウでは、大雨による裂果を防ぐため排水対策を徹底する。
- ④簡易雨除けを設置してある圃場では、強風でビニール等が飛ばされないよう、補強を行う。

<施設果樹>

- ①施設栽培では、棚やパイプ等の骨材の点検を行い、必要に応じて補修や補強を行う。特にビニールがまくられないようにマイカ線等の点検を徹底する。
- ②ブドウの雨除けハウス等では、施設の倒壊を防ぐため、風が強くなる前にビニールを巻き上げる。

〔事後対策〕

- ①園地が滞水している場合は、速やかに排水対策を行う。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は、土寄せを実施する。
- ②樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を切らないように樹を起し、根元に土を寄せ支柱等で固定する。
- ③太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い、縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を平らに剪除し、ゆ合剤を塗布する。
- ④ブドウは、枝や新梢の再誘引、カサのかけ直しを行う。また、葉ズレ、カサズレ、打撲のひどい果粒は摘粒する。
- ⑤落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか、土中に埋める。
- ⑥ほ場巡回を行い、裂果や果実腐敗病が発生している場合には、速やかに除去する。特に、ブドウでは裂果が発生しやすいため注意する。
- ⑦強風や雨により、枝葉や果実等への損傷や泥のはね上がりなどから、病害の発生が心配されるため、防除基準にしたがって薬剤防除や発病果などの除去を徹底する。また、収穫後のほ場においても、防除暦に従い薬剤防除を徹底する。
- ⑧施設栽培では、棚やハウスの骨材、ビニール、各種の装置、機具、機械等を点検し、破損のある場合は修理する。